

2. 火山の概況

(平成 16 年 6 月 3 日 ~ 平成 16 年 6 月 9 日)

浅間山では地震がやや多い状態が続いた。火山活動度レベル（以下レベルと記載）は2。

富士山では低周波地震が発生した。

三宅島では噴煙活動が継続し、多量の火山ガスの放出が続いた。

阿蘇山では熱的な活動が引き続き活発で、小規模な土砂噴出が継続した。レベルは2。

桜島では降灰があった。レベルは2。

諏訪之瀬島では爆発的噴火が多発した。

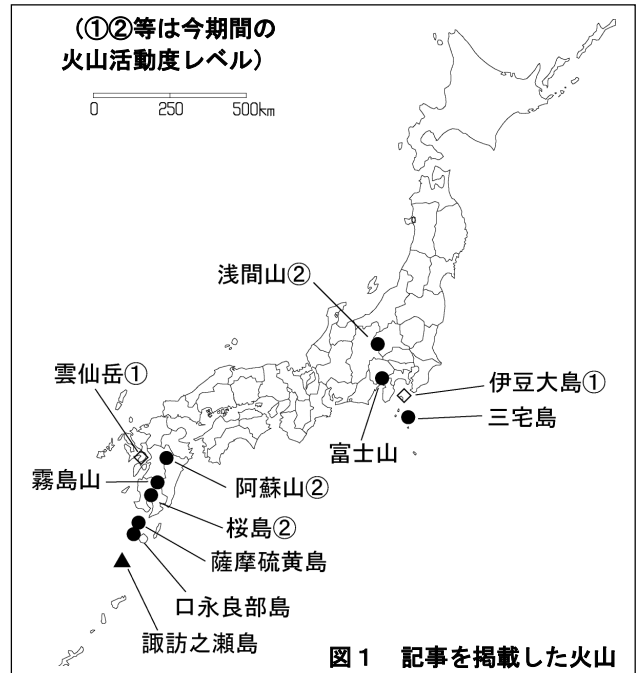


図1 記事を掲載した火山

表1 最近1か月に記事を掲載した火山

号	対象期間	浅間山		伊豆大島		阿蘇山		雲仙岳		桜島		草津白根山	富士山	三宅島	霧島山	薩摩硫黄島	口永良部島	諏訪之瀬島	
		レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号										
24	6/3-6/9	②	●	①	◇	②	●	①	◇	②	●		●	●	●	●	●	●	▲
23	5/27-6/2	②	●	①	◇	②	●	①	◇	②	◇			●	●	▲	●		
22	5/20-5/26	②	●	①	◇	②	●	①	◇	②	▲			●	●	●	●		
21	5/13-5/19	②	●	①	◇	②	●	①	◇	②	▲	●		●	●	●	●		
20	5/6-5/12	②	●	①	◇	②	●	①	◇	②	●			●	●		●		◇

注1 記号の意味

- ▲：噴火した火山
- ：活動が活発な状態にあるか、もしくは観測データ等に変わった火山
- ◆：前期間まで▲や●で掲載し、その後の状況等を掲載した火山
- ◇：その他記事を掲載した火山
- ①②等の丸付き数字：火山活動度レベル

注2 本文の火山名の後ろの[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、変化があった観測データ項目を示す。

● **浅間山 [地震・微動・噴煙・熱] レベル2 (やや活発な火山活動)**

振幅の小さい地震は、昨年6月末頃からやや多く観測されるようになっており、今期間も1日あたり27~55回とやや多い状態が継続した。また、振幅の小さい火山性微動が6回観測された(前期間は11回)。

山麓の監視カメラでは、白色の噴煙が最高で火口縁上300mまで上がるのが観測された。

赤外カメラ(群馬県林務部が火口縁に設置)では、引き続き火口底に高温部が確認された。

● **富士山 [低周波地震]**

低周波地震が4~6日にかけて計18回観測された。その内10回は5日20時台に発生した。これらの地震はいずれも規模が小さく、震源¹⁾は山頂北西約4km、深さ約15km付近で、これまでに低周波地震が発生していた場所とほぼ同じであった。浅部の地震活動等その他の観測データに変化は見られなかった。

1) 東京大学、独立行政法人防災科学技術研究所、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを基に算出。

◇ **伊豆大島 レベル1 (静穏な火山活動)**

地震活動、噴煙活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなかった。

● **三宅島 [噴煙・火山ガス・地震]**

白色噴煙は山頂火口から連続的に噴出しており、期間中の高さの最高は火口縁上400mであった。

8日に行った火山ガスの観測²⁾では、二酸化硫黄の放出量は日量4,000~7,700トンと依然多い状態で

あった(図2)。

振幅の小さいやや低周波の地震は、1日あたり26~52回とやや多い状態で推移した。

2) 警視庁の協力による

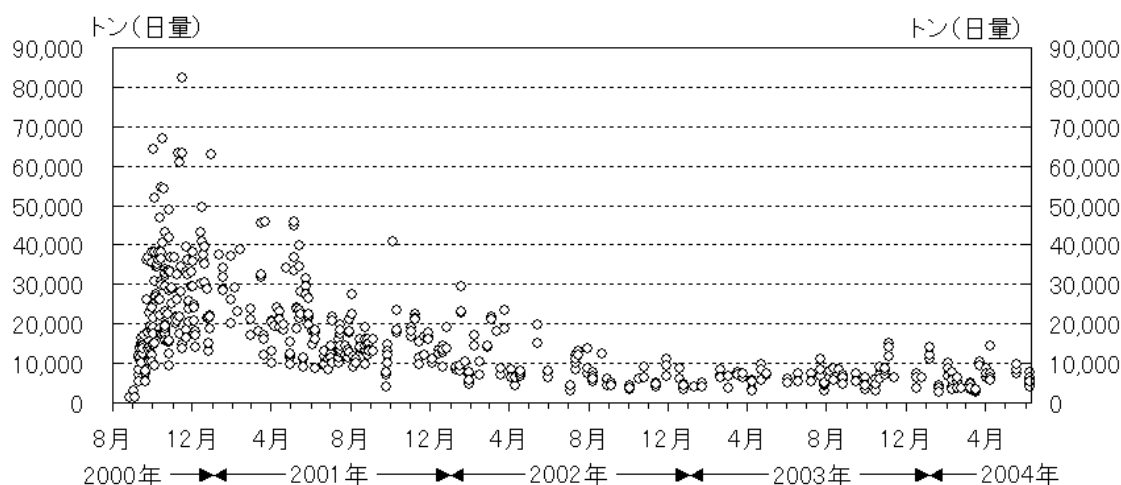


図2 三宅島 二酸化硫黄放出量の推移 (2000年8月26日~2004年6月9日)

● 阿蘇山 [熱・土砂噴出・微動] レベル2 (やや活発な火山活動)

中岳第一火口では熱的な活動が引き続き活発で、小規模な土砂噴出が継続した。

3日に阿蘇山測候所が行った現地観測によると、中岳第一火口の状況は、湯だまりの色は灰色、湯量は約4割で、湯だまりの表面温度の最高は74℃(前期間72℃)、火口壁の最高温度は390℃(前期間374℃)と依然高温状態にあった。湯だまりの中央部及び南西側で高さ約5m、その他数ヶ所で高さ2~3mの土砂噴出が観測された。

期間中、火山性微動は連続して観測された。また、孤立型微動は今期間358回発生し、前期間(669回)から減少したものの、依然としてやや多い状態が継続している。

噴煙は白色で、噴煙の高さの最高は火口縁上500m(前期間300m)であった。

地殻変動等その他の観測データには特段の変化はなかった。

◇ 雲仙岳 レベル1 (静穏な火山活動)

地震活動、噴煙活動とも静穏であった。その他の観測データにも特段の変化はなかった。

● 霧島山 [噴気]

御鉢火口の噴気活動はやや活発な状態が続いている。6日、7日及び9日に御鉢の火口縁を越える噴気が遠望カメラで観測され、その最高は火口縁上300mであった。

● 桜島 [噴煙・降灰] レベル2 (比較的静穏な噴火活動)

期間中、桜島で噴火と計数している規模の噴火はなかったが(前期間もなし)、噴煙活動は活発で、火山灰を含む有色噴煙(灰白色)が度々観測され、有色噴煙の高さの最高は5日の火口上700m以上(灰白色)であった。

3日~6日に鹿児島地方気象台(南岳の西南西約11km)で降灰が観測された(前期間はなし)。今期間の降灰量は9g/m²であった。

● 薩摩硫黄島 [微動・地震]

期間中噴火はなかったが(前期間は6月1日に降灰を確認)、火山性微動が3回(前期間は1回)、地震が49回(前期間は46回)発生した。

● **口永良部島** **[地震]**

地震の発生は、2月2日に多発して以降増減を繰り返しており、期間中の合計は7回であった（前期間は8回）。火山性微動は発生しなかった（前期間もなし）。

▲ **諏訪之瀬島** **[爆発・噴煙・降灰・微動]** **<期間外の記述を含む>**

7日から火山活動が活発となり、7日に73回、8日に2回、9日に22回の爆発的噴火を観測した。遠望カメラにより観測された期間中の噴煙の高さの最高は、8日の火口縁上1,200m（灰白色）であった。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、7日08時50分頃から8日09時頃まで火山灰を含んだ噴煙が上がっているのが確認され、7日は13時頃から夕方にかけて爆発音も聞こえた。10日（期間外）06時～07時頃、集落（御岳の南南西約4km）に少量の降灰があった。

火山性微動は、7日から断続的に観測されるようになり、8日12時29分からは連続して観測されている。

表2 火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
三宅島	火山観測情報第306号	3日 09:30	活動経過ほか（噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想）。
	↓（1日2回発表） 火山観測情報第319号	↓ 9日 16:30	
阿蘇山	火山観測情報第31号	4日 11:00	火山活動は引き続きやや活発（孤立型微動やや減少、微動連続状態、小規模な土砂噴出多数発生、湯だまりの高温状態継続）。レベルは2。
諏訪之瀬島	火山観測情報第4号	7日 15:00	噴火活動やや活発化（7日08時頃から微動が発生し、09時頃から噴火活動活発化。昼過ぎからは空振を伴う連続的な噴火が発生中）。
	火山観測情報第5号	8日 11:30	やや活発な火山活動が継続（空振を伴う連続的な噴火は7日昼過ぎから同日夕方まで継続。微動が断続的に発生中）。
	火山観測情報第6号	9日 11:00	やや活発な火山活動が継続（爆発的噴火発生。微動が8日12時頃から連続して発生中）。